

ヨコハマトリエンナーレ 2017 タイトル、コンセプトの発表

横浜市で3年に一度行われる現代アートの国際展、ヨコハマトリエンナーレ 2017（会期：2017年8月4日～11月5日）は、ジャンルや世代を超えたメンバーからなる「構想会議」での議論を経て、タイトルをヨコハマトリエンナーレ 2017「島と星座とガラパゴス」（英題：Yokohama Triennale 2017 “Islands, Constellations and Galapagos”）に決定しました。

「島」「星座」「ガラパゴス」は、孤立や接続性、想像力や指標（道しるべ）、独自性や多様性など、色々な捉え方のできるキーワードでもあります。このタイトルを手掛かりとして、先行きの見えない複雑な時代に、人間の想像力・創造力をもって、未来への知恵を多くの人々と共に考えていきます。

また、視覚体験に限定されない「対話・議論」、「思考」、「共有・共生」の場づくりを目指し、会期に先立つ2017年1月より定期的に連続会議「ヨコハマラウンド」を開催し、タイトルに関する諸問題や可能性について議論していきます。

ヨコハマトリエンナーレ 2017 「島と星座とガラパゴス」

**Yokohama Triennale 2017
“Islands, Constellations and Galapagos”**

会期：2017年8月4日（金）～11月5日（日） ※第2・4木曜日休場 開場日数 88日間

主会場：横浜美術館（横浜市西区みなとみらい3-4-1）/ 横浜赤レンガ倉庫1号館（横浜市中区新港1-1-1）

主催：横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、横浜トリエンナーレ組織委員会

構想会議メンバー：スハーニヤ・ラフェル、スプツニ子！、高階秀爾、リクリット・ティラヴァーニヤ、鷲田清一、養老孟司
逢坂恵理子、三木あき子、柏木智雄（ヨコハマトリエンナーレ 2017 ディレクターズ）
(以上、アルファベット順)

本資料についてのお問合せ | 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局（担当：帆足、高橋）

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内

TEL 045-663-7232 FAX 045-681-7606

E-MAIL press@yokohamatriennale.jp

URL <http://www.yokohamatriennale.jp>



コンセプト

今、世界は、従来の枠組みを超えてネットワークがこれまでになく拡大する一方で、紛争や難民、移民の問題、英国の EU 異議等で大きく揺れています。また、人間の処理能力を大幅に超えて情報量が氾濫し高度に複雑化した環境の中で、SNS 等の急激な発達による島宇宙化が進み、さらには大国や中央集権の論理に抗うかのような様々な小規模共同体の動きが活発化しています。

こうした状況を背景に、ヨコハマトリエンナーレ 2017 は、「島と星座とガラパゴス」というタイトルのもと、改めて世界の「接続性」と「孤立」の状況について様々な角度から考えます。そして、多島海のような地域、文化圏のあり方や保守化する世界、閉鎖された環境における独自の進化と多様性、さらには、そうした相反する概念や側面が複雑かつ流動的に絡み合う世界の在り様に対して、人間の想像力・創造力がどのような可能性を拓き得るのか等について思索を巡らせます。

ヨコハマトリエンナーレ 2017 は、時代の転換期といわれる現在、星を指標に大海原を航海した古の船乗りたちの勇気と、星と星の間に線を引くことで神話的な形象を描き物語を紡いだ人間の想像力・創造力をもって、デジタル的な視点（0と1で構成される世界観）では把握できない世界の複雑さや奥深さ、繋がりを多角的に捉え直し、何を未来の知恵としていくべきなのか、多くの人々とともに考える場となることを目指します。

開港の地、横浜

2017 年は、日本における封建制の崩壊と近代化の起点となった大政奉還から 150 年という年にあたります。横浜は、こうした旧体制の崩壊と日本の近代化を誘引した「開港」の地であり、接続性と孤立というテーマは、その歴史的背景と密接に繋がっています。ヨコハマトリエンナーレ 2017 の企画にあたっては、開港（開国）における様々な物や知識の出会いをイメージして、また、本トリエンナーレが単に現代美術の展覧会にとどまることなく、「対話・議論」、「思考」、「共有・共生」の機会になることも念頭に、コンセプト等を検討する「構想会議」と「ヨコハマラウンド」という連続会議を設けることにしました。

構想会議

「構想会議」は、国内外より 6 名の世代の異なる美術、解剖学、哲学といった各種分野の専門家を迎えて、今夏に始動しました。ディレクターズとともに、既存の思想的な枠組みや専門領域の壁を超えた分野横断的な議論を行い、企画コンセプトや内容決定への反映を進めています。

ヨコハマラウンド

「ヨコハマラウンド」では、展覧会に先立つ 2017 年 1 月から展覧会期終了までの間、より幅広い分野の専門家等を迎えて、<島>、<星座>、<ガラパゴス>から想起される諸問題や可能性について、シリーズで会議を実施します。また、地域の大学等の教育機関との連携も図る予定です。

2016 年 10 月 11 日

ヨコハマトリエンナーレ 2017 ディレクターズ
三木あき子、逢坂恵理子、柏木智雄

構想会議メンバー プロフィール



スハーニヤ・ラフェル
(Suhanya RAFFEL)

M+美術館 エグゼクティブ・ディレクター

スリランカ生まれ。香港在住。
2016年11月よりM+美術館
に着任予定。オーストラリア
のクイーンズランド州立美術館/ギャラリー・オブ・
モダン・アートでアジア太平洋地域の現代美術
コレクションの形成に携わり、2002年より同館
主催のアジア・パシフィック現代美術トリエン
ナーレを主導。その後、ニューサウスウェールズ
州立美術館副館長兼コレクション担当ディレク
ターを務め(2013-16年)、グッゲンハイム美術館
のアジア・アート・カウンシルメンバー(2009-14
年)等要職を歴任。



スプツニ子！
(Sputniko!)

現代美術家、マサチューセッツ
工科大学メディアラボ助教

1985年東京生まれ。ボストン/東京在住。インペリアル・
カレッジ数学科および情報工学
科を卒業後、英国王立芸術学院
(RCA) デザイン・インタラクション専攻修士課程を
修了。在学中よりテクノロジーによって変化していく人
間の在り方や社会を反映させた映像インスタレーション
作品を制作。主なグループ展に「Talk to Me」(2011年、
ニューヨーク近代美術館)、「東京アートミーティング
うさぎスマッシュ」(2013年、東京都現代美術館)など。
FORBES JAPAN「未来を創る日本の女性10人」に選出
(2014年)。2013年より現職。



高階秀爾
(TAKASHINA Shuji)

美術史家、大原美術館館長
東京大学名誉教授

1932年東京生まれ。東京
大学教養学部卒業。フランス
政府招聘留学生として渡
仏(1954-59年)。東京大学教授、国立西洋美術
館長等を経て、2002年より大原美術館館長。
2015年より日本芸術院会員。専門はルネサンス
以降の西洋美術史。日本近代美術についても造詣
が深い。『日本近代美術史論』(ちくま学芸文庫)、
『ルネサンスの光と闇:芸術と精神風土』(中公
文庫、芸術選奨文部大臣賞)、『日本人にとって美
しさとは何か』(筑摩書房)などの著書多数。
2012年文化勲章受章。



**リクリット・
ティラヴァーニヤ**
(Rirkrit TIRAVANIJA)

現代美術家、コロンビア大学
芸術学部教授

1961年アルゼンチン生
まれ。現在、ニューヨーク、
ベルリンおよびタイのチェン
マイを拠点に活動するタイ人
作家。同世代の作家のなかでも最も影響力のある
作家のひとり。オブジェ制作、公的・私的パフォー
マンス、教育ほか多様な行為を組み合わせ、メディ
アの形態にとらわれない作品づくりをしている。
コロンビア大学芸術学部で教鞭を執るほか、作家、
美術史家、キュレーターで構成されるコレクティ
ヴ・プロジェクト「ユートピアステーション」の
創設メンバー兼キュレーター。チェンマイを拠点
とする教育系・環境系のプロジェクト「ザ・ランド・
ファウンデーション」の理事も務める。



鷺田清一
(WASHIDA Kiyokazu)

哲学者、京都市立芸術大学学長
せんだいメディアテーク館長

1949年京都市生まれ。京都
大学文学部卒業、同大学院
修了。大阪大学総長を経て、現職。哲学の視点から、
身体、他者、言葉、教育、アート、ケアなどを
論じるとともに、さまざまな社会・文化批評を
おこなう。主な著書に『モードの迷宮』(ちくま
学芸文庫、サントリー学芸賞)、『「ぐづぐづ」の
理由』(角川選書、読売文学賞)、『「聴く」ことの力』
(ちくま学芸文庫、桑原武夫学芸賞)、『哲学の使い
方』(岩波新書)がある。現在「折々のことば」(朝
日新聞)連載中。2004年紫綬褒章受章。



養老孟司
(YORO Takeshi)

解剖学者、東京大学名誉教授

1937年鎌倉市生まれ。東京
大学医学部卒業後、解剖学教
室に入り、その後同大学医学部教授。1995年退官。
人間社会の様々な事象を脳の機能や仕組みと
結びつけて評論。『解剖学教室へようこそ』(筑摩
書房)、『からだの見方』(筑摩書房、サントリー
学芸賞)、『唯脳論』(ちくま学芸文庫)など著書
多数。『バカの壁』(新潮社、毎日出版文化賞特別賞)
は、2003年ベストセラー第1位、同年流行語大賞
受賞。ムシテックワールド館長、京都国際マンガ
ミュージアム館長も務める。

(以上、アルファベット順)

—ヨコハマトリエンナーレ2017 ディレクターズ



逢坂恵理子
(OSAKA Eriko)

横浜美術館館長

国際交流基金、ICA名古屋
を経て、水戸芸術館現代
美術センター主任学芸員(1994-96年)、同センター
芸術監督(1997-2006年)、森美術館アーティス
ティック・ディレクター(2007-09年1月)。
第49回ヴェネチア・ビエンナーレ(2001年)で
日本館コミッショナーを務め、「蔡國強展:帰去來」
(2015年)を企画するなど数々の現代美術展を
手掛ける。2009年4月より現職。ヨコハマ
トリエンナーレ2011では総合ディレクターを、
2014では組織委員会委員長を務めた。



三木あき子
(MIKI Akiko)

キュレーター、
ベネッセアートサイト直島
インターナショナルアーティ
スティックディレクター

パレ・ド・トキヨー(パリ)
チーフ / シニア・キュレーター(2000-14年)、
ヨコハマトリエンナーレ2011アーティスティック・
ディレクター等歴任。第46回ヴェネチア・ビエンナーレ
「トランスクカルチャー」(1995年)、「台北ビエンナーレ:
欲望場域」(1998年)、「荒木経惟:私・生・死」
(2005年)、「チャロー!インディア」(2008年)、
「杉本博司:今日世界は死んだ」(2014年)、
「村上隆の五百羅漢図」(2015年)等アジア・欧州にて
多くの企画を手掛ける。『Insular Insight』(Lars
Müller、2011年DAM建築本賞)等、共著・共編多数。



柏木智雄
(KASHIWAGI Tomoh)

横浜美術館副館長
主席学芸員

専門は幕末から現代まで
の日本美術。1988年に
横浜美術館準備室に入り、同館にて「斎藤義重
による斎藤義重展 時空の木—Time・Space,
Wood—」(1993年)、「紫紅と鞍彦展」(1995年)、
「菅木志雄:スタンス」(1998年)、「李禹煥
余白の芸術展」(2005年)など。共著書に『明るい窓:
風景表現の近代』(大修館書店)、『失樂園 風景
表現の近代』(大修館書店)、『はじまりは国芳
—江戸スピリットのゆくえ』(大修館書店)、
『通天閣日記 横山松三郎と明治初期の写真・
洋画・印刷』(思文閣出版)など。

イメージビジュアル

※ポスター・チラシのデザインはこれをもとに今後展開していきます。



展覧会タイトルの「ガラパゴス」を象徴する存在としてガラパゴスゾウガメをイメージとして取り込み、日本の伝統文様である「亀甲紋」を組み合わせました。また、古代インドの宇宙觀を表す「世界亀」から構想を得て、亀の上に横浜の街並みを描きました。

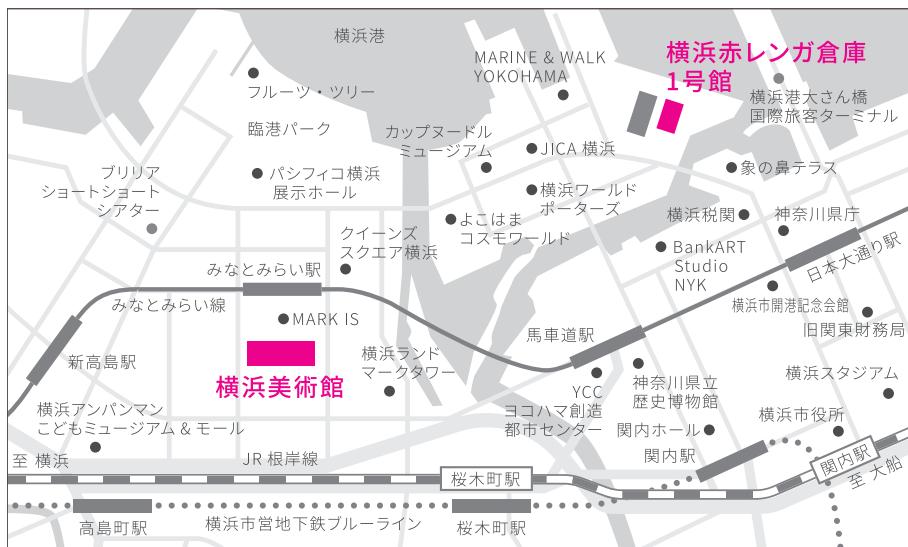
クリエイティブ・ラボ PARTY

本イメージビジュアルはPARTYによるものです。PARTYは、インターネットの進化による社会の「ネットワーク化」と「グローバル化」に対応した、ビジュアル、コミュニケーション、プロダクト、サービス、イベント、コンテンツ、空間など、デジタルの技術を活用したデザインのほか、プロトタイプの研究開発も手掛けるクリエイティブ・ラボです。東京とニューヨークに拠点を構えています。

川村真司 | クリエイティブ・ラボ PARTY クリエイティブディレクター / 共同創設者。数々のブランドのグローバルキャンペーンを始め、テレビ番組開発、ミュージックビデオの演出など活動は多岐に渡る。アメリカの雑誌 Creativity の「世界のクリエイター 50 人」や Fast Company 「ビジネス界で最もクリエイティブな 100 人」、AERA 「日本を突破する 100 人」に選出。

室市栄二 | ビジュアルデザイナー／デザインテクノロジスト。3DCG、モーショングラフィックスそしてクリエイティブコーディングのスキルを駆使したハイブリッドなビジュアル表現を追求している。様々なグローバルブランドのプロジェクトに参加し数多くの国際的なアワードを受賞。日本、サンフランシスコ（AKQA アートディレクター）を経て、2014 年にクリエイティブ・ラボ PARTY New York にデザイン・ディレクターとして参加。

★ 主会場案内



横浜美術館

横浜市西区みなとみらい 3-4-1



撮影：笠木靖之

設計：丹下健三／丹下健三・都市・建築設計研究所
竣工：1989年
構造：鉄骨・鉄筋コンクリート造
延床面積：26,829 m²

交通アクセス

みなとみらい線（東急東横線直通）「みなとみらい駅」
〈3番出口〉から、マークイズみなとみらい〈グランドガレリア〉経由徒歩3分、または〈マークイズ連絡口〉
(10時～)から徒歩5分。JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」
から〈動く歩道〉を利用、徒歩10分。

横浜赤レンガ倉庫 1号館

横浜市中区新港 1-1-1



設計：妻木頼黄
竣工：1913年
構造：煉瓦組積造
延床面積：5,575 m²

交通アクセス

みなとみらい線（東急東横線直通）「馬車道駅」または「日本大通り駅」より徒歩約6分、「みなとみらい駅」より徒歩約12分。JR・横浜市営地下鉄「桜木町駅」より汽車道経由で徒歩約15分、「関内駅」より徒歩約15分。

★ 横浜トリエンナーレ組織委員会 (2016.9.1 現在)

名誉顧問 宮田 亮平 (文化庁長官)
名誉会長 林 文子 (横浜市長)【代表】
 粕井 勝人 (NHK会長)
 渡辺 雅隆 (朝日新聞社社長)

委 員 市村 友一 (朝日新聞社企画事業本部長)
 逢坂恵理子 (横浜美術館館長)
 佐々木建史 (NHK事業センター専任部長)
 澤 和樹 (東京藝術大学学長)
 澄川 喜一 ([公財]横浜市芸術文化振興財団理事長)【委員長】
 高階 秀爾 (大原美術館館長)
 建畠 哲 (多摩美術大学学長)
 柄 博子 ([独法]国際交流基金理事)
 中山こずゑ (横浜市文化観光局長)
 オブザーバー 木村 直樹 (文化庁文化部芸術文化課長)

※会長、委員は50音順

☆ 横浜トリエンナーレとは

横浜トリエンナーレは、横浜市で3年に1度行われる現代アートの国際展です。これまで、国際的に活躍するアーティストの作品を展示するほか、新進のアーティストも広く紹介し、世界最新の現代アートの動向を提示してきました。

2001年に第1回展を開催して以来回を重ね、世界の情勢が目まぐるしく変化する時代の中で、世界と日本、社会と個人の関係を見つめ、アートの社会的な存在意義をより多角的な視点で問い合わせてきました。

☆ 横浜トリエンナーレの基本的な考え方

使命	横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、創造都市横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。				
アートでひらく	ひらかれた現代アートの祭典として誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。				
目標	世界とつながる ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。 まちにひろがる 創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。				
行動指針	世界水準	次世代の育成	市民参加	祝祭性	賑わいづくりと経済活性化

☆ これまでの開催実績

開催年	2001年(第1回)	2005年(第2回)	2008年(第3回)	2011年(第4回)	2014年(第5回)
テーマ/ 展覧会タイトル	メガ・ウェイブ —新たな総合に向けて	アートサーカス [日常からの跳躍]	TIME CREVASSE タイムクレヴァス	OUR MAGIC HOUR —世界はどこまで知ることが できるか?—	華氏451の芸術： 世界の中心には忘却の海がある
ディレクター/ キュレーター	[アーティスティック・ディレクター] 河本信治 建畠哲 中村信夫 南條史生	[総合ディレクター] 川俣正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	[総合ディレクター] 水沢勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム マー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オプリスト ペアトリクス・ルフ	[総合ディレクター] 逢坂恵理子 [アーティスティック・ディレクター] 三木あき子	[アーティスティック・ディレクター] 森村泰昌
会期 (開場日数)	9月2日—11月11日 (67日間)	9月28日—12月18日 (82日間)	9月13日—11月30日 (79日間)	8月6日—11月6日 (83日間)	8月1日—11月3日 (89日間)
主会場	[2会場] ・パシフィコ横浜展示ホール ・横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] ・山下ふ頭3・4号上屋	[4会場] ・新港ピア (新港ふ頭展示施設) ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・三溪園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)	[2会場] ・横浜美術館 ・新港ピア (新港ふ頭展示施設)
参加作家数	109作家	86作家	72作家	77組(79作家)/1コレクション	65組(79作家)
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円
総入場者数 (有料入場者)※	約35万人(約35万人)	約19万人(約16万人)	約55万人(約31万人)	約33万人(約30万人)	約21万人(約21万人)
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚
ボランティア/ サポーター登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人
主催者	国際交流基金 横浜市 N H K 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 N H K 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 N H K 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	横浜市 N H K 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会 共催:(公財)横浜市芸術文化振興財団	横浜市 (公財)横浜市芸術文化振興財団 N H K 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会

※入場者数は延べ人数